

## 平成 30 年度第 1 回 栗東市立図書館協議会

- 開催日時 平成 30 年 9 月 22 日（土）10：00～12：00
- 開催場所 栗東市立図書館 会議室
- 出席者 澤絢子 小幡庫士 國松完二 井之口哲也 大屋邦代  
宗本和子 青木春美 伊丹佳美
- 事務局 教育部長（館長兼務） 図書館副館長 館長補佐
- 欠席者 2 人
- 傍聴者 0 人

### 概要

#### 1.あいさつ

会長あいさつ

#### 2.協議事項

- ① 平成 29 年度事業報告について
- ② 平成 30 年度進捗状況について
- ③ 栗東市立栗東西図書館の今後のあり方について
- ④ その他

#### 3.閉会

部長あいさつ

### 開会

会長あいさつに

本日の議題に併せ、開館から 30 年の歩みの上に新たな未来を開くための取組みについてそれぞれの立場の委員の皆様より活発なご意見を頂き、充実した協議会としたい。

副館長あいさつ

4 月から拝命した。滋賀県民の長寿と図書館の利用率の高さについての記事があったので調べてみると、滋賀県民はボランティアの参加が多く、喫煙、飲酒率が低い。また図書館の設置率が高く貸出が多い。長寿には、本に親しむ暮らしにヒントが隠されているのではないかと。

昨年 7 月に策定した基本的運営方針をよりどころにして事業を進めていく上で、委員の皆様のお知恵をお借りしてすすめていきたい。

### 議事

#### ①平成 29 年度事業報告について

（事務局）栗東市立図書館活動報告に沿って説明

併せて、運営方針に定める目標値に対する評価一覧についても説明

（委員）貸出の減少が続いているが評価としてどのように考えられているのか。

（事務局）平成 21 年以降市の財政再構築プログラムの中で、図書費削減、開館日削減を実施したことで貸出減少がすすんだ。一旦平成 27 年度に一人当たりの貸出冊数を 7 冊から 10 冊へと増やしたことで年間の貸出冊数も増えたが、現在、歯止めの効かない状態で減少がすすんでいる。

栗東だけでなく全県的に減少傾向ではある。

(委員) 合併により図書費が減ったことで、全県的に貸出冊数の減少傾向ではある。

しかし滋賀県は一人当たりの貸出冊数が全国平均 5.5 冊に比べると 7.4 冊と高い水準。

新刊予算が減っていることは貸出冊数減少の大きな要因。

本来栗東の規模なら一年間の購入は今の 1 万冊の倍は必要と思われる。

(委員) 利用する側から一番気になるのは、開館日が少ないこと。

行きたいときに、閉まっているのは使いにくいと感じている。

(事務局) 市のアンケート調査でも休館日が多いことに対してご意見を頂いている。

何とか開館日の増加を実施したい。

(委員) 栗東の蔵書キャパが 30 万冊というのは少ないと感じる。人口一人当たり 6 冊で考えると 40 万冊はほしいところ。今後集密書架など考えていく必要があるのでは。

(事務局) 特別コレクションの馬資料の管理については、既に所蔵場所に困っており検討をおこなっている。今後対応について考えていきたい。

(委員) 守山の図書館が開館することで、どれくらい利用が減少すると考えているのか。

(事務局) 家族での利用が多いため、かなり影響があると思われる。出来るだけ新規に登録された守山の方に栗東図書館を好きになってもらうよう努めている。

## ②平成 30 年度の進捗状況について

(事務局) 平成 30 年度の進捗状況について説明

(委員) 音訳講座（初級）を受講していただいた方の最終的な目的はなにか。

(委員) 講座終了後は音訳グループたんぼぼに入ってもらって活動してもらおうこととしている。

活動内容としては、リクエスト資料のデージー化、対面朗読など。

(委員) デージー録音には特別目次等を付す必要があるのでは、どのように研修されているのか。

(委員) 初級講座では、音訳と朗読の違いや音訳の基礎について学んでいる。デージー作成についてはボランティアグループに入ってもらってから指導している。

(会長) 現在音訳グループは何名いるのか。

(委員) 11 名

(委員) 開催講座は初級が続いているようではあるが。

(委員) グループに新たなメンバーが加入されなかったときは初級講座が続く場合がある。

(委員) 出張読み聞かせ講座は、職員向けで実施されているのか。

(事務局) 読み聞かせをされる大人向けの講座として実施している。ただし児童館では子どもも一緒に参加していただいている。

(委員) 現在 2 箇所での実施のみの様なので広げていただきたい。

(委員) シニアボランティアの経過と今後のあり方についてお聞きしたい。

(事務局) 28 年度にボランティア講座を開催し、参加された中からグループ「マロン」を 17 名で結成していただき現在 3 年目になる。ボランティアが自主的に活動いただく様に活動のあり方を模索している。

昨年の 30 周年でも共同で行事を実施したが、現在はグループのあり方が固まっていないので、人員の募集はしないしてほしいとの意向をお聞きしている。

### ③「栗東西図書館の今後のあり方（案）」について

(事務局) 栗東西図書館の今後のあり方について説明。

(委員) 今後の西館の運営は、今の場所、広さが前提なのか。

(事務局) 栗東市では図書館2館を存続。場所についても同じように進めていくと考えている。

施設については、手を加えることも検討していきたいが、ビルの中で工事をおこなうにあたり制約が多いことは懸念している。

(委員) 書庫を増やしたりできないのか。マイナンバーの普及でコンビニでの交付がすすめば現在の交付場所が不要になるのでは。

(事務局) 将来的に、交付場所がどうなるかは見守っていきたい。

(委員) 現在児童館が休館するという状況であるが、既存の施設の利用なども考えられないか。

(事務局) 西館は児童館と隣接しているので、児童館と児童図書室を一体化するなどが出来れば子どもたちがもっと本に親しんでくれるかと思うが、残念ながら施設が離れている。

建物構造が防音になっていない為、子どもの声が大人のコーナーに響くなど、いろいろと課題を抱えているので出来る限りリニューアルで対応したい。

(委員) 西館の役割のなかで子ども読書推進活動が上がっているが、授業のなかでは読み深めていく事が大切であり、並行読書に取り組んでいる。

同じ作者、同じ主題の図書を集める必要があり、教師は市、県立の図書館を回り集めている。是非学校支援に取り組んでいただきたい。

また、守山図書館は最新の設備を揃えられるので、参考にさせていただきたい。

(事務局) いま仰っていただいた授業に使うものは期間、内容が集中するということがある。また多くの学校が使用するにあたり、コーディネートをする学校司書の役割が重要になってくると考えている。西館では、これから新たに図書館が担っていくサービスの拠点としていきたいと考えている。

### ④その他について

(事務局) レファレンス記録について

記録の内容で特徴的なのは栗東についての問合せが多いこと。多くのことがインターネットで簡単に調べられる中、地域の事については図書館が砦となっていると感じている。

気軽に、地域の事について調べられるということもアピールしていく必要があると考えている。

(事務局) 図書館関連記事コピーについて

多くの図書館の取組みが記事になっている。やはり図書館は人々の関心の高い施設ということがわかる。このような取り組みを参考にさせていただき、自館の有り方を考えていきたいと思う。

(会長) 議事については全て終了した。

図書館では高齢者が熱心に新聞・雑誌を読んでいる姿、またお父さんが子どもと一緒に本を選んでいる姿を見かけるようになった。

図書館が情報、心の宝庫として成り立っているのは職員、ボランティアのみなさんのおかげと感じている。

本日は市民、それぞれのお立場で貴重な意見を賜り大変ありがたい。

閉会にあたり部長から一言お願いしたい。

(事務局) 当市の規模で 2 館あるのは大変貴重な財産と考えている。市は厳しい財政状況であるが、運営方針の目標値は右上がりになっていくように取り組みたい。

また、学校の連携についても読書は学力テスト、読解力と密接に係わっている。

本年から司書が学校教育課と兼務し、また学校司書も一名採用し図書館リニューアル事業を進めている。

次回の 2 月開催時も貴重なご意見を頂きたい。

ありがとうございました。